

次世代の担い手として諸君に期待するもの — 範は歴史にあり —



12



「『人生の時間割』をつくってほしい」と語る古賀代表社員
|| 県立大佐世保校(山下哲嗣撮影)

古賀商店代表社員

古賀 良一氏(74)

佐世保市天満町で文具店を営んでいる。今年で創業80周年を迎えた。文房具のほか、事務用品や事務機器の納入も手掛ける。アマゾンなど、インターネット通販の拡大や異業種参入により、業界の現状は厳しい。時代の流れは激変した。多い時で全国に3万店あった小売店は、7千店を割り込んだ。卸売店も1600店あったが、300店以下に落ち込んでいく。生き残り

人生の「時間割」が大切

を因るため、頭を悩めている。佐世保徳育推進会議の事務局長を務めている。ボランティア活動を通じて感じたことを伝えたい。企業関係者からは「今の若者はルールを知らない」といった声をよく聞く。「入社してからでは間に合わない」とも言っている。人と

まれても、コピーするだけで並べない新人が多いらしい。受け身ではなく、何を求められているかを頭に入れておいてほしい。大学生の今から、「人生の時間割」をつくるのが大切だ。将来どうするのか、心構えが求められる。作家の五木寛之によると、一生を四つに分けると、20歳までは「学生期」で、一生懸命に勉強をする時期だ。21〜50歳までは家庭を守り働く「家住期」、51〜70歳までは自分の人生を確かめる「林住期」。それ以降は「遊行期」として、心を豊かに生きる時期を迎える。ポーツと生きてはいけない。後々のことを想像しながら自分の生き方、生きざまを考えて、タイムスケジュールをつくってほ

しい。皆さんはまだ間に合う。AI(人工知能)の時代が到来する。人間は何をするのか。まだ発明されていない技術を使い、まだ知らない問題を解決するような、現時点では存在しない仕事に就くかもしれない。世の中は激変しているのに、のんびりとは、できない。V(バイタリティー)、S(スペシャリスト)、O(オリジナリティー)、P(パーソナリティー)の「V SOP」を兼ね備えた人が、今から求められる「人材」だ。こうした社員が会社の役に立てる。AI時代になっても、動かしているのは人間だ。決断すること、創造することを忘れず、次世代の担い手となることを期待する。

|| 次回は29日に掲載します
(後藤洋平)